

プラスチックの何が問題なのでしょう

■プラスチックとは

プラスチックは石油から作られています。合成樹脂とも言われます。軽量で丈夫、加工もしやすいので、身の回りの様々な製品や容器包装などに幅広く利用されています。その一方で、自然界で分解されにくいという特徴があります。

■大量のプラスチック消費

日本のプラスチックごみは、人口1人当たり年に32kg、米国に次いで世界第2位です。この大量のプラスチックが、現在地球規模で環境破壊を生み出しています。中でも地球温暖化と海洋汚染は深刻な問題となっています。

■地球温暖化とは

地球の表面は太陽のエネルギーで温められています。温められた熱の一部は大気中の二酸化炭素(CO₂)に吸収されて、地球上に残ります。大気中のCO₂の量が適度なら、地球全体の気温はほどよく保たれます。ところが、それが増えすぎると熱が余分に残ります。すると、地球全体の気温が上がってしまいます。これを地球温暖化といいます。

地球温暖化は、気温を上昇させるだけでなく地球全体の気候を大きく変える「気候変動」を引き起こします。既に世界各地で、自然環境や人の暮らしにその影響や被害が現れています。災害級の猛暑や記録的豪雨など、その深刻さから近年は「気候危機」という言葉も使われるようになりました。

■プラスチックと地球温暖化

それでは、この地球温暖化にプラスチック消費はどのように関係あるのでしょうか。モノを燃やすとCO₂が出ます。台所でガスを燃やしたり、自動車でガソリンを使ったりすると、CO₂が出ます。プラスチックについても、樹脂の生産⇒プラスチック製品の生産⇒流通・消費⇒プラスチックごみの焼却などの処理の過程でCO₂が排出されています。世界のプラスチック生産・消費量は急増を続けており、それに伴ってCO₂の排出量も増え続けているのです。

■海洋プラスチックごみ問題とは

このプラスチックごみ問題で最近特にクローズアップされているのが、プラスチック

による海洋汚染です。プラスチックが流出してしまうと、河川などを通じて海にたどり着き、海洋汚染につながってしまいます。莫大な量のプラスチックごみが現在海に流れ込んでいて、2050年には海の魚よりもプラスチックの総重量のほうが重くなると試算されています。プラスチック製ストローが鼻に刺さったウミガメや、餌と間違えてレジ袋やプラスチックごみを大量に飲み込み、それが原因で餓死したクジラなどの姿が最近も報道されました。

●マイクロプラスチック

マイクロプラスチックとは、大きさが5mm以下のプラスチックのことです。粉砕や劣化で小さくなったこのプラスチックは、それを取り込む魚はもちろんのこと、陸や空の生き物すべての命を脅かしています。

●マイクロビーズ

マイクロビーズとは、マイクロプラスチックの中でもさらに小さいプラスチックのことです。通常、目には見えません。肌の汚れや古い角質を除去する目的で、洗顔料やボディウォッシュ、練り歯磨きなどに添加されています。マイクロビーズは余りに小さいので、排水処理施設では除去できず、そのまま河川を通じて海に流れ込んでおり、プランクトンや魚に摂取され、人の健康や生態系に大きな影響を及ぼすのです。

5R：すべての被造物を愛し大切にするために

神さまがお造りになったすべての被造物を愛し守ることは、私たちの大切な責任であり喜びです。その具体的な取り組みとして、5Rを提唱します。

Refuse (リフューズ) 断る：ごみになるものを断ること

Reduce (リデュース) 発生抑制：ごみを発生させないこと

Reuse (リユース) 再使用：ものを繰り返し使うこと

Repair (リペア) 修理：ものを修理して使うこと

Recycle (リサイクル) 再生利用：資源として再生利用すること

感謝すること

そして、最後に、なによりも大切なことは、心から感謝して生きることかもしれません。わたしの存在を支えるあらゆる環境に深く感謝すること。そこからこの環境を守るための勇気と力が与えられるに違いありません。

出典・参考資料：

東京都・横浜市ホームページ

single-use plastics: A roadmap for sustainability (国連環境計画、2018年)